

ノースウインズ（North Winds）は、庄内地域でラグビーを愛する人々、楽しむ人々がお互いに協力し、大きな集合体となり、世代を超えてふれあい、活動できるクラブを目指して2002年に設立された庄内地区総合ラグビークラブである。

ラグビークラブは全国に多数散在しているが、ノースウインズは子どもからお年寄りまで楽しく活動する地域型総合クラブを特徴としている。メンバーは総勢168人で、その内訳は高校生を主体としたユース会員、社会人ラグビーチーム出身の社会人会員、ラグビーを趣味として楽しんでいるシニア会員、そしてクラブのスタッフで構成されている。このような幅広い世代で構成されているラグビークラブは全国でも珍しい。しかし、はじめからこのように幅広い会員で構成されているわけではなかった。ノースウインズが設立される前、庄内地域には社会人チームが4チーム、高専・高校チームが3校の3チームあったが、どのチームでも年々部員の減少、試合数の激減などの問題があり、どのチームも存続へ危機感が募っていた。この現状を打破するために、2001年後半から、庄内のラグビーチームを統一しようという動きが始め、4ヶ月の準備期間を経てノースウインズがスタートした。以来、ノースウインズは「ジュニアの育成」、「高校・高専チームの活性化」、「幅広い活動を目指す社会人」の3つの活動方針を掲げて活動している。特に、社会人チームは4年連続県代表として東日本クラブ選手権に出場している。

昨今のニュースや新聞を賑わせている事件や事故をみていると、これからの世の中に対して危惧を抱いている人は少なくないだろう。モラル、あるいは人間としてあるまじき事件が連日報道され、なぜ個

人や企業がこのようなオフサイドな行為をしてしまうのだろうか。この答えについて私は「スポーツの教育的な効果がまったく出ていないのでは」という見方をしている。

私の体験についてご紹介したい。少年時代、私は野球に夢中になり、毎日野球ボールを追いかけていたが、ある時はじめて目にした関東大学ラグビー早明戦でラグビーに目覚めてしまった。それまでラグビーについてはまったく知らず、ラグビーボールすら触れたことのなかった私だったが、それ以来ラグビーに魅せられ、大学4年間はひたすらラグビー

バリューサイト VALUE SIGHT

オフサイドを嫌う精神とノーサイド精神の育成を通じ、地域に愛される総合ラグビークラブへ

紳士のスポーツといわれるラグビー。ラグビーを愛するメンバーが年代・世代を超え、プレーを楽しむだけでなく、ラグビーを通じ、ルールを守る子どもの育成や地域貢献に取り組み、地域に愛されるチームをめざしている。



庄内町余目中学校で開催されたタグラグビー教室

ボールを追いかけた。その後、地元就職し社会人になってからも、生まれ育った山形でラグビーを通じて貢献したいと思っていた。庄内地域で同じようにラグビーへの熱い思いを持った仲間たちとの出会いにより、自分もプレーを楽しみながら、子ども達にラグビーを通じて活力と尊敬の紳士道を教えるために活動してきた。

ラグビーの魅力は一言では言い尽くせないが、私がこれだけ夢中になった理由は、集団スポーツの極にある、全15人のプレーヤーの仲間意識と、自由奔放な展開プレーに魅せられたことだろう。さらに、ラグビーでは、練習中やゲームの中で努力しない者、つまり走らない者はボールを持つ

チャンスがない。そこから私は、充実した人生を築くことが出来るかどうかは自分の努力次第で、努力すれば必ず勝利につながることをラグビーを通して確信した。

先に個人や企業のモラルのない行為を評して「オフサイドな行為」と述べたが、オフサイドとはラグビーやサッカーに使われる独特のルールで、プレーしてはいけない禁止領域や状況のことである。ラグビーはこのオフサイドを徹底して嫌う精神で成り立っている。

ラグビーは、オフサイドというルールがあること

がら友好を深めていくラグビー独自の文化のことである。このノーサイド精神から、ラグビーではゲーム終了後に「アフターマッチ・ファンクション」と称する、チーム同士の交流会をする文化をもっている。ラグビーのプレーヤーは相手を尊敬することが前提で、そこでは社交性や紳士としての振る舞いが求められる。これは日本の武道に求められる、競技性よりも礼節を重視する精神性と共通しているだろう。例えば、勝敗が決まった後の立ち振る舞いに現れる相手に対する態度、たとえ勝っていても負けていても、相手に対して尊敬の思いを大事にできるかという姿勢に相通じるところがある。

ノースウインズでは、ラグビーの持つオフサイドを嫌う精神とノーサイド精神を大事にし、活動はチームの練習だけでなく、ラグビー競技普及のため、また社会に認められるクラブ作りを目指している。2003年には、小中学生を対象とした「タグラグビー」という、接触のない安全なラグビー教室をおこなった。学校の先生方に協力をいただきながら庄内の小中学生にラグビーを指導したが、逆に子どもたちの自由な発想にはスタッフが感心させられた。

また、毎年「海の日」には湯の浜海岸の砂浜でラグビーをする「ビーチタッチ大会」も行っている。このイベントでは大会後に、参加者で海岸の清掃活動を実施して、庄内のきれいな砂浜のため、積極的に地域貢献活動を行っている。

これまで5年間のクラブ事業活動のなかで、多くの成功や失敗を経験することが出来た。これからもラグビーを通じて、スポーツの意義を少しでも多くの方々に伝え、また、思い切り走り回る楽しさを味わっていただきたいと日々の活動にまい進していきたい。機会がありましたらぜひご声援をお願いします。



ノースウインズ
ゼネラルマネージャー

堀 志朗

によって、プレーヤーはゴールを目指しながらも、ボールを持った見方の後方からしかプレーに参加できない。もし、味方の前や横からプレーすれば、「楽をする卑怯者」とされてしまう。そのため、常にルールを守って正々堂々と相手に立ち向かうことが求められる。ラグビーでは、公正・公平であること、モラルやルールを守ること、そして仲間同士のコミュニケーションを高めていくことを学び、同時にそれらを通じて社会人として必要な要素が培われる。

またラグビーには「ノーサイド」という言葉がある。ノーサイドとは、ラグビーにおける試合終了のことを意味し、ゲームが終わると同時に、それまでサイドに分かれていた両チームが、ノーサイド、つまり敵味方という隔たりをなくして、同じラグビーを愛するもの同士・仲間としてゲームを振り返りな

■ 堀 志朗 (ほり・しろう)

ノースウインズ ゼネラルマネージャー。
現在、庄内銀行資産運用サービス部（大山支店駐在）。
1947年 山形県最上郡最上町生まれ。
1978年 関東ラグビーフットボール協会B級公認レフリー取得。
1992年 べにばな国体レフリー。
2004年 日体協 C級スポーツ指導員取得。
現在、山形県レフリー委員会アセッサ（コーチ）。
〒998-0853 酒田市みずほ1-12-1
TEL・FAX 0234-23-8336